



SOH TOH SHUN JYŪ

總和会三綱領

- 1、宗門の興隆を図り、宗政の運営に関し、公正妥当なる施策の実現を期すること。
- 2、本宗の伝統性格を尊重し、大本山の尊厳維持に努めること。
- 3、会員相互の協調連絡を図り、その親和結束を固くすること。

発行所 總和会本部 〒 105-0002 東京都港区愛宕 2-3-4 大本山總持寺出張所内 Tel. 03 (3431) 5017

第29回 總和会全国大会 開催
 期日 令和4年11月7日 会場 曹洞宗檀信徒会館

式 辞

總和会会長 三吉 由之



本日、紫雲臺猥下の御親修のもと、總和会最高顧問 大本山總持寺副貫首 盛田正孝老師、總和会常任顧問 大本山總持寺監院 渡辺啓司老師、曹洞宗参議 總和会常任顧問 渡邊義弘老師のご臨席を賜り、第29回總和会全国大会を開催いたしましたところ、全国各地より多数の会員諸老師にお集まりいただき、衷心より感謝申し上げます。

大本山總持寺貫首 石附周行大禪師猥下におかれましては、先般10月11日、晋山式禮を無事修行されましたこと、改めてお慶び申し上げます。また我々總和会会員はもとより、全国の曹洞宗寺院、檀信徒の皆さまをお導きくださり、さらには令和6年にお迎えいたします「太祖瑩山紹瑾禪師700回大遠忌」の諸事業推進にご教導いただき、誠にありがたく存じます。

さて、9月28日に行われました總和会幹事会におきまして、任期満了に伴う役員改選が行われ、私、三吉由之が会長職をお受けさせていただくこととなりました。会員諸老師におかれましては、さらなるご法愛、ご教導を賜りますようお願い申し上げます。

近年、核家族化、生活の多様化などにより、宗門はもとより仏教界全体を取り巻く環境も著しく変化し、葬儀や法要の簡素化に対する懸念も指摘されておりました。そのような中、突如として起こった平成23年の東日本大震災では、命の儂さ、世の無常さを改めて痛感いたしました。今もなお、大切な人を亡くして嘆きつづけ、避難生活を余儀なくされている方々がいらっしゃることを忘れてはなりません。

また、激変する社会状況の中、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症が令和2年初頭より世界的

に流行し、日常生活そのものへの制限も余儀なくされ、葬儀や仏事を満足にしたいとも出来ない状況となり、寺院社会にも多大な影響を及ぼしております。

ただし、私はこのような社会状況にあっても、人々の信仰心は決して希薄化しているとは思いません。新型コロナウイルス感染症の流行で、人々は改めて、人と人とのつながり、人と人がふれ合う大切さを、身をもって痛感したのではないのでしょうか。

まさに700年以上の伝燈をつないでまいりました曹洞宗の教えは、祖師方の身をもった相承があったからにはほかなりません。

私自身、平成9年の議員就任以来、六代の先代会長のもと、多くの方々のご縁をいただき、「和合」の大切さを学ばせていただきました。先輩諸老師は「嶽山会は内堀、總和会は外堀」と熱く語っていただき、本山の尊厳護持について常にお教えるいただきました。

その和合の大切さを踏まえ、鬼生田俊英前会長が推し進めてくださった宗門改革の議論につきましても、全国の会員諸老師の代表であります議員・支部長老師との政策議論の場たる「四部会」を最大限活用して、時代に適した宗門のかたちを模索する議論へと、誠心誠意臨んでまいります。この宗門の諸問題の議論につきましても、全国總和会会員の声に真摯に耳を傾け、和合集（宗）団としての姿を実現してまいります。

まさに大禪師猥下がおっしゃる「一味同心」の精神をもって總和会の会派運営に臨んでまいり所存です。

会員諸老師のご法体堅固、寺門興隆を祈念申し上げますとともに、なにとぞ大本山總持寺のさらなるご隆昌、太祖瑩山禪師700回大遠忌の円成、そして仏法興隆への多大なるお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

鶴 一 聲

「バラ色の夢」それは恋愛の夢ではなく、事がきつとうまく運び、将来が豊かに輝くという夢である。

今から半世紀ほど前、旧宗務庁舎が建て替えられ、ホテルを併設したソートービルが竣工した。宗門が全額出資し、株式会社東京グランドホテルを経営。

その目的は利益の配当で、宗門本来の活動に資するというものであった。

不慣れた未知のホテル経営を不安視する声もあったが、宗門寺院が負担する宗費の軽減に繋がるとの期待の声が勝つたと記憶する。

しかし、その期待は夢と消えた。

多額の負債を抱え経営が破綻。宗門がその債務を返済し、清算するに至った。

その後、平成十一年十月一日、新たに宗教法人曹洞宗の収益事業として、檀信徒会館東京グランドホテルが再出発し、現在に至っている。

順調に推移した事業もコロナ禍により業績が悪化し、深刻な状況である。

当初の出発から五十年の歳月が過ぎようとする今、経営を継続することが出来るか否か、決断する時期はそう遠くはないであろう。

ご垂示

大本山總持寺貫首 石附 周行



錦上添華の好時節、總和会全国大会が曹洞宗檀信徒会館・東京グランドホテルに於て、全国總和会支部の代表者・宗議会議員の諸老師方等と共に一同に会し得ますことは至極の喜びであり、開催を心からお祝い申し上げます。

現今のコロナ禍にあつての開催準備は御苦労が多かったことと思いますが、このように参集されたお姿に接し喜びに耐えません。

過般行われました任期満了による宗議会改選におきましても、親和結束のもと無事決定されましたことは大変喜ばしく思います。

そして、この度発足されました新執行部におかれましても、大いなる期待が寄せられているところであり進歩を念じております。

大本山總持寺におきましては、いよいよ太祖瑩山禪師さまの700回大遠忌を令和6年4月にお迎えすることで切迫して参りました。大遠忌局を中心に万端の準備を進めておりますが、ご参集の諸老師におかれましては何につけ御助言を賜りますよう、この場をお借りして懇願申し上げます。

拙衲も入山以来、1年を経過することとなり、晋山式も過日10月11日に無事円成させていただきました。

愈々、御開山さまへの報恩行に精進するところですが、示訓である「たとひ難値難遇の事有るとも必ず和合和睦の思いを生ずべし」(洞谷記)を心して一味同

心に歩いて参る所存であります。

本日、ご参集されました諸老師方におかれましては、コロナ禍に配慮されて、總和会三大綱領実現に向かって全国からの声を反映していただき、会の発展に御尽力下さいますようご期待申し上げる次第であります。

以上、粗辞を申し上げましたが、大会の垂示に代えさせていただきます。

全国大会開會式
檀信館中仰世尊
總和耆宿弄心魂
誰知秋菊单伝道
日々行持報四恩

物故者追悼諷經
任運星移追悼辰
心香一辨感懷新
金風体露秋如錦
古佛相和無位真

祝 辞

總和会最高顧問・大本山總持寺副貫首 盛田 正孝



爽秋の候、ここ曹洞宗檀信徒会館において三吉由之總和会会長老師のもと、第29回總和会全国大会が開催されますことは誠に尊い事と心からお祝い申し上げます。

各御老師方には日頃から宗門のため、御本山のために御理解と御尽力を頂いておられる方であります。その方々が一同に集い日頃の体験を踏まえての意義のある御意見をお聞き出来ます事は誠に有難いことと存じます。

大本山總持寺におきましては来る令和6年「太祖瑩山紹瑾禪師700回大遠忌」を迎えます。その準備は既に皆様のお力添えを頂き乍ら現董禪師猗下御総覧のもと、監院老師を中心として各役職の方々が一丸となって任に當っております。

大遠忌を間近にして改めてその意義を思う時、太祖大師の御誓願がどれだけ自分の事となっているか、又700年の年月と伝統が長さだけでなく自らの信念となっている

かを自らに問いながら報恩行に徹してこそ相承であり、伝光であり大遠忌の眼目であります。

大本山總持寺に特に御縁の深い私達と致しましては時として太祖大師の偉大さが正當に認識評価されているかを心に掛けることがあります。高祖大師の偉大さは言う迄もない事ですが、その高邁なる法をきちんと体得され更に俗に墮することなく民衆化すると言う最も難しい命題を成し遂げられた稀有の尊師であり、この偉大なる太祖大師が居られなければ、現在の曹洞宗は無いと言う事をもっと意識して発言すべきです。

大遠忌を迎える今、私達は如何にして太祖大師を顕彰すべきかを考える時、山内の結構は立派に調えられました。

次は、太祖大師の偉大さをきちんと学ぶための「宗学の論理」を構築し学ぶことが太祖大師の正當なる評価へと繋がり、それこそが本山発展の希望の芽になると確信するものでございます。ここに些か所感を述べまして祝辞に代えさせていただきます。

祝 辞

總和会常任顧問・大本山總持寺監院 渡辺 啓司



紅葉が一段と色を増す好季節、令和4年度總和会全国大会が開催されますこと、衷心よりお慶び申し上げます。紫雲臺猯下におかれましては、本山行事まことに綿密かつ、丁寧にお勤めいただき更に各地御親化にもおでかけになられ、すこぶるご健勝

にて内外ご接化賜り、有難い限りであります。

更に本年2月に盛田正孝老師を副貫首に又、青山俊董老師を西堂に就位いただき、新たな本山の体制にて邁進しております。

總和会会員の皆様方には、常日頃愛山護法本山に対し越格のお力添えを頂戴いたしており、厚く感謝申し上げます。

今大会もコロナ禍に於いて前執行部の成果を引き継がれ、今般新たに誕生した新体制のもとで開催なされましたこと、大会事務局はじめ執行部各位のご準備とご努力に、深甚たる敬意と感謝をいたすものであります。

本山も3年にわたるコロナ禍で、大変な期間を経て現在回復に向かっていますが、いまだ諸般困難な状況下であります。

4月にはコロナ感染者発生による慶弔会の延期、授戒会や山門行事の中止、そして未曾有の僧堂一時閉鎖とい

う苦渋の事態に直面し、多くの関係者にご迷惑をおかけいたし、誠に申し訳なく改めてお詫び申し上げます。

地域社会に於いて重要な役割を果たしている大本山總持寺を護る、大禪師猯下及び全国より安居する大切な修行僧を守る、山内役寮他寺務員関係者を守る為、現在も油断する事なく更なる徹底した予防対策を続けております。その間、全国の御寺院様よりお寄せいただいた励ましとご援助に対しまして心より御礼申し上げます。

その中において、延期となりました慶弔会は事務局立ち上げより約1年間を経て多数の御寺院と来賓ご臨席のもと9月14日に江川辰三猯下茶毘式禮を丁寧かつ厳粛に、更に10月11日に石附周行猯下晋山式禮を莊嚴にて喜びあふれる祝賀として無事盛会裡に執り行うことができました。2ヶ月重ねてご本山にご法助いただき心より御礼申し上げます。

いよいよ来年の全国各管区での予修法要を皮切りに令和6年の太祖瑩山紹瑾禪師700百回大遠忌を迎えます。50年に一度難値難遇の法縁であり、この2ヶ年が最も重要な年と相成ります。宗門挙げて、殊に總和会会員老師各位の一層ご法助を重ねて切に懇願いたすものであります。

諸事多忙の中お越しいただいた總和会の皆様方の益々の御法体堅固と山門隆昌を祈念いたし、總和会の益々の発展を願い挨拶とさせていただきます。

祝 辞

總和会常任顧問・曹洞宗参議 渡邊 義弘



本日、全国各地より多くの皆様方がご参集下さり、第29回總和会全国大会が3年ぶりに開催されますことをお慶び申し上げます。

この度、大禪師猯下の御慈慮により大役を拝命いたしました兵庫県第84番永澤寺住職でございます。任じられてまだ半月も経ちませんので心の整理もつかず、右も左もわからない浅学非才の者ではございますが、ご本山のお役に立つことができれば幸いと思ひ有難くお請けした次第でございます。

お請けした役の主な仕事場は宗務庁と伺っております。そこは60年近く前、本山安居の後に書記として採用され、木造庁舎内の総務部で約3年間来る日も来る日も山積み

にした干責台帳の処理に汗を流した仕事場であり、また、27年前に突如選挙区の議員老師が辞任され残任期間の2年を議員として貴重な経験をさせていただいた緊張の場でもあります。

更に、大道禪師の時代には6年間副監院として奉職させていただき、猯下の公務に何度かお供した聖域でもございます。

無礼と知りながら自己紹介を兼ね私事を申し上げますが、懐かしい場所で与えられた職務に専念する覚悟でございますので、何卒、諸老師方には一層のお力添えとご教導を賜りますようお願いすると共に、後になりましたが、本大会の盛会と会員諸老師のご健勝を祈念申し上げます。祝辞にかえさせていただきます。

第29回 總和会全国大会概要

第29回總和会全国大会が、令和4年11月7日(月)に140名余の参加者を集めて、曹洞宗檀信徒会館で開催されました。

開催は、コロナウィルスの感染拡大防止の観点から2年間中止されており、今回の開催は、令和元年に開催されて以来3年ぶりのこととなりました。

午後1時からの式典では荒井裕明副幹事長の司会により、藏山大顕副会長の「開式の辞」で幕を開けました。曹洞宗管長・大本山總持寺貫首石附周行猥下の御親修のもと、仏祖諷経・会員物故者追悼諷経が厳修され、ご垂示をいただきました。

この度、新しく会長に就任された三吉由之總和会会長の式辞に続き、總和会最高顧問大本山總持寺副貫首盛田正孝老師、總和会常任顧問大本山總持寺監院渡辺啓司老師、新たに就任いただいた曹洞宗参議兵庫県永澤寺住職渡邊義弘老師よりそれぞれご祝辞をいただきました。

式典終了後の第1部「大会会議」では、宗歌斉唱の後、山務、宗務、会務報告が行われ、特に山務報告では、大本山總持寺三村契一大遠忌局長より大遠忌への取組みについての提言と報告を頂きました。また、来年発行予定の「大本山總持寺

御両尊大遠忌だより」において大遠忌における中間報告を予定しているとのお話がありました。

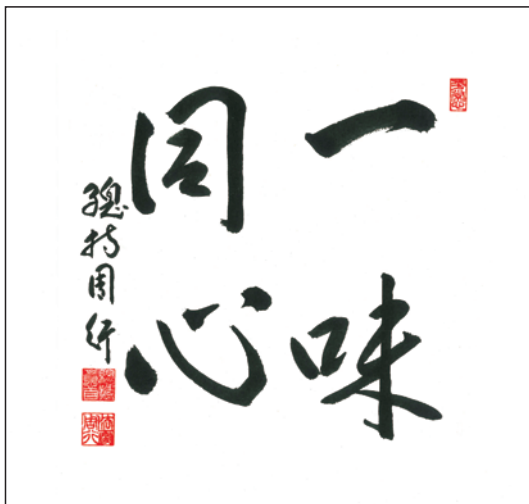
第2部の「記念講演」では、テレビでも活躍された東北福祉大学学長・千葉公慈先生をお招きして『仏教のいま、これから一混迷の時代を生きるために一』と題してお話をいただきました。

講演終了後、本日ご参加いただきました全国各支部の自己紹介が第1選挙区の東京より第32選挙区の北海道まで順次行われました。

それぞれ各支部の現状や特色、今抱えている問題などを各支部代表者が簡潔に述べられ、参会の一同が心をつにし總和会の発展と曹洞宗の繁栄を心新たにされたことと思います。

第3部「懇親会」は、審事院・宗門関係学校・大本山總持寺諸役寮のご来賓も出席されて盛大に催し、須田孝英總和会顧問の万歳三唱で總和会及び宗門の更なる飛躍を祈念し、服部直哉總和会幹事長のお礼の言葉でもって無事にお開きとなりました。

尚、来年度は令和5年11月6日(月)大本山總持寺において、瑩山禪師700回大遠忌の予修法要を兼ねて開催される予定です。多くの方々のご参加をお願い致したく存じます。



大本山總持寺貫首 石附周行猥下のご垂示



式辞を述べる三吉由之總和会会長



全国の支部から多数の老師が参集した

記念講演

『仏教のいま、これから
— 混迷の時代を生きるために —』

東北福祉大学学長 千葉公慈 先生

【講師紹介】

1964年、千葉県市原市朝生原生まれ。
駒沢女子大学教授、曹洞宗教師を経て、現在は学校法人梅檀学園 東北福祉大学学長。
東北福祉看護学校校長。宝林寺住職。
千葉県いちほら観光大使。(株)小湊鐵道取締役。
地域おこし隊「いっぺあ de 溪谷」代表。
2017年グッドデザイン賞受賞（受賞番号17G070631）。
専門分野はインド仏教。日本文化論。

【著書】

『知れば恐ろしい日本人の風習』

『仏教から生まれた意外な日本語』

『心と体が最強になる禅の食』

『うつが逃げだす禅の知恵』

『お寺と仏教』

以上、河出書房新社

『心に花を咲かせる言葉』 双葉社

『祖師に学ぶ禁煙の教え』 仏教タイムズ社（来馬明規・千葉公慈共著）

『運がよくなる仏教の教え』 集英社（萩本欽一・千葉公慈共著）ほか。

※『てらスクール』にて「こちらてんぐ山 おてら掲示板」月刊連載中

今の世の中、食事について「七つのコ」が問題視されている。一人で食べる孤食、複数で食べるときでもそれぞれ違うものを食べる個食、子供だけで食べる子食、極度なダイエットをする小食、同じものばかり食べる固食、濃い味付けをする濃食、粉類ばかりの簡単食の粉食、これは食事の場合の一つの典型であり現代文化には共通するものがあると思う。宗教にとってもいえるのではないか。個人の独りよがりな宗教「個宗」、他宗教に共感ができない自己満足の宗教「孤宗」、宗教を超えて会話もできない融通の利かない宗教「固宗」、幼稚で稚拙な教えの羅列されている宗教「子宗」、万人には開かれていない一部の凝り固まった内輪の宗教「小宗」、偏った偏見に満ちた宗教「濃宗」、粉飾された宗教「粉宗」、人間の営みですから食事と宗教はレベルが違うけれど宗教的な営みとして宗教のレベルはどこか通じているものがあるのではないか。そういったものを我々は普段一つ一つ反省しながらこの「コ宗教」を乗り越えた本来持っている仏教のすばらしさ普遍的な宗教を坐禅をするごとに感じて

いくようなそういった日々を送りたいと思います。はじめにというところで現在陥っていないかという宗教の特色を紹介してみました。

ライト兄弟が飛行機を作ったのが1903年、わずか60年で人間は月まで行ってしまった。そういう特別な時代を我々は生きている。今、京都大学のホームページで原始仏典をAIで入力しそこで人生相談や法話などをAIにやってくれということが始まりました。AIの発達により車の運転はもとよりいろいろな職業がAIに取って代わっていく時代がやってくるといわれています。しかし私はこのようなAI全盛時代を迎えても決して仏教、特に僧侶の存在はなくなるとは思いませんし、なくしてはいけないと確信しました。それはどんなに知識やシステムが合理化されて、有益化されたとしてもそれを使うのは最終的には人間であるからであります。伝光録第三章商那和修の章の「参禅は須らく自ら参悟すべし。悟り畢りては人に遭ふべし。」とは、坐禅修行がただ悟れば良いのではなく、常に師や先輩、修行仲間とともに行われなければ、独善に陥ることを忠告します。人が人と出会い、学び学ばれて知識というものは初めて意味を持つということです。お釈迦様の得意だった対機説法も相手に応じて説法をするという上から目線のものではなくて言葉が行ったり来たりする中でお釈迦様がだんだん生き生きされていく。生きた会話を交わすことでお釈迦様の気持ちを伝えることができるわけです。瑩山禅師様の時代もまた伝光録の中でも和合という言葉がキーワードにされるほど非常に大事にされたのは混沌とした時代だからこそ和合そして人に出会って直接お話しするんだということ力を説かれた。今、ウクライナ戦争をはじめとして世界中で何が正しいのか、何が人類の選択肢として選ばれるべきなのか、答えはあったとしても世界はその通りにはならない。こ



混迷の時代にこそ祖師の教えが生きてと言及

ういう混沌とした時代だからこそしっかりと人々に教えることができたお祖師様これに学ばない手はないんだということを申しあげたい。お釈迦様の時代この時はどうだったか。今から2,500年前のインド。齢80歳を迎えた釈尊は、いよいよ最後の旅に出ます。当時の都、ラージギル（王舎城）を出発して故郷のルンビニーを目指すその旅は、約350kmにもわたる旅でした。その旅の困難であったことは想像に難くありません。その旅は故郷を前にクシナーラーという小さな村で終わりますが、その様子は、『マハー・パリニッバーナ・スッタタ（大いなる死：大般涅槃経）』に伝えられています。その当時、ガンジス川流域でもっとも強大な国家はマガダという国でした。マガダ王は、隣国で繁栄していた小国のヴァッジ族を攻め滅ぼそうと考えていたのです。困ったヴァッジ族の王様は急きょ大臣をラージギルの靈鷲山りょうじゆせんにおられた釈尊のもとに遣わして、その対応策を尋ねます。釈尊はその際、弟子のアーナンダを通してヴァッジ族が減びないこと、そして小国ながらもなぜ繁栄しているのか、その秘訣を説かれたのでした。ここで人間社会が永久に滅びないための7つのダルマ（Dharma）、「七不害法」が説かれたのです。一、住民がしばしば会議を開いて、多くの人々が参集する。二、一致協力して会合し、決議した通りに行動する。三、旧来の法にしたがって行動し、風習を守っている。四、年長者を敬い尊び、彼らの言葉をしっかりと聴く。五、女性や子どもに決して暴力をふるったり、強制したりすることがない。六、その社会が守ってきた聖域の社・祠を敬い、しきたりの供物を怠ることがない。七、道を学ぶ修行者たちを尊敬し、彼らを

守り、また学ぶ者たちがよく集まる。この人類にとって普遍的なダルマが守られている限り、ヴァッジ族は繁栄するから、たとえマガダ国のような大国であっても、決して攻め滅ぼすことはできないだろう、と説かれました。つまり仏教が考える理想的な人間社会の姿がそこに描かれているのです。今よりもっとひどい時代であったであろうお釈迦様の生きていた時代にお釈迦様が語られた言葉こそ今の時代を生きるヒントがあるのではないかと。人々が協力し合い約束を守り伝統や人権を重んじることによって人類は決して滅びないと。時代も国もいろいろな状況環境は違いますが、これら仏教の持っている普遍的な永遠に続く力を分かち合いながら生きていくよう努めてまいりたいと願います。



大画面モニターも活用し、現代の世相を分析

全国大会での各支部からのご意見

《意見 1》 栃木県支部 國生泰俊老師

同一選挙区内に複数の宗務所があり、所属寺院数に格差がある場合、議員を議会に送り出す事が難しい。様々な地域から将来を担う人材を求めていけるような宗制、会派の在り方を広く問題提起してもらいたい。

【回答】 このことについては、過去の議会質問においても問題提起されておりますが、大変難しい課題であります。様々な地域から優秀な人材を活用することは、宗門にとっても会派にとっても大切な事と承ります。若い世代の宗侶に少しでも宗制に対する関心を持って頂けるよう四部会の議論を深め慎重審議に努めさせて頂きたく存じます。

《意見 2-1》 千葉県支部 池田良久老師

～中央集権から地方分権へ（宗務庁業務のスリム化）
～全国66宗務所に1,000万円の手当を宗費（宗費の約

13%）より充ててはどうか。

【回答】 宗務所職員への支給手当については夫々の宗務所規程に基づいて支給され、その額は宗務所ごとに相違があります。これは、地域ごとの寺院数や業務量等の規模による事情もあると思われませんが、寺院を取り巻く現況、そして将来を鑑みた時に地方分権への視点は重要な機構改革の論点となると考えます。この件に関しましては宗務行政に直接関わる課題でありますので、四部会等の会議において慎重審議してまいります。

《意見 2-2》

～会派会長選挙は議員投票及び全国支部長総投票制へ
～会派会長選挙に際しては、宗議会議員（票数36）及び全国支部長（票数48）の総投票数としてはどうか。

【回答】 ご要望の通り会派会長選挙は各県の意見を反映する機会であり、政治に対する関心度の高まりが期待出来ると思われれます。また、候補者がマニフェストを作成し、政策を比して投票することも望ましい方向性であ

ると思われま。一方、現選挙方法も先輩方の叡智により確立されたものであると思慮致します。しかしながら、現在会長選挙にあたり明文化された規程が制定されておりません。『会長選挙規程』の制定を目指し、頂いたご意見も参考として四部会等の会議において慎重審議してまいります。

《意見 3-1》 愛知県第 3 支部 渡部貫道老師

普請などの為に財産処分をすると、宗門に10%の義財金を納めなければならない。非常に負担が大きい。義財金の割合を見直すなど、一般寺院を救済・存続させる為に妥当な施策を宗門に提案し実現する意思がありますか。

【回答】 財産処分に伴う義財金の割合の見直しが必要というご意見ですが、過疎化やコロナ禍等社会情勢の変化を考慮すれば、義財金を大きな負担と感ずるのは尤もなことで存じます。見直しのためには宗制の変更が必要です。当会の四部会にて一般寺院の負担軽減に資する施策を議論立案できるよう進めてまいります。

《意見 3-2》

三綱領に「大本山の尊厳維持」とありますが、社会情勢や一般寺院を取り巻く状況を踏まえ、今の時代に則した体質に改めるような助言を行い、全国の寺院から慕われ、護持される大本山にする意思がありますか。

【回答】 ご本山は我々の信仰の帰趨であり、その伝統と尊厳を重んじることは極めて重要と認識致します。社会情勢の変化は一般寺院のみならずご本山にも少なからぬ影響を及ぼすものと推測いたします。その様な状況の中で、ご本山の尊厳維持のために我々に何ができるか嶽山会と共に意見を集約したく存じます。

《意見 3-3》

恩衣取得の際支払う会派恩金の使途を具体的に明示して欲しい。

【回答】 恩衣被着特許の際に納めて頂く恩金は、会費、助成金と共に、会派の貴重な収入となっております。その恩金の使途についてのご質問ですが、毎年度幹事会において会計監査報告を行っております。また、その使途を明記した同報告書を各支部にお配りしておりますので、ご確認をお願い致します。

《意見 3-4》

総和会会長選挙について、議員のいない県の支部長（幹事）12名以外の支部長（評議員）にも選挙権や発言権を与えて欲しい。

【回答】 総和会会長の選任につきましては、現在その内規を定めるべく準備を進めております。ご指摘の有権者の数についても十分に検討し、公正な選任が行われるよう会長選任の内規を策定する予定です。

《意見 4》 奈良県支部 加藤賢一老師

総和会会則第 8 条（選任）において、対象となるのは

議員である幹事36名、支部長である幹事12名である。その中役員で宗議会議員でなければ選任できないのは会長のみである。総和会という組織の中で役職に支部長である幹事を充てることも必要で会務運営により良い方向性が示されると思われる。

【回答】 会長の指針の中で議員と支部長との共通の情報伝達の確立、四部会における支部長幹事の立場というものがあ。現在新執行部にて会則変更に着手しておりますが、支部長幹事の立場についても重要事項として検討されるものと思慮致します。今後四部会の意見を踏まえつつ、幹事会にてご要望の点並びに会則について慎重審議致したく存じます。

《意見 5》 和歌山県支部 酒井秀瑞老師

従来の四部会とは別に支部長会を作り意見交流の場とし、地域の意見が現実的に受け入れられる運営を望む。そのやり取りが循環型となりより良い総和会の会務運営になるのではないか。

【回答】 四部会の運営方法と、現在ホームページに専用ページを新設し、スピーディーに情報交換・共有ができるよう努力してまいります。また、ご要望につきましては会則に関わる事項ですので、今後の四部会・幹事会において慎重審議してまいります。

《意見 6-1》 熊本県支部 梅本実道老師

会の和合を旨とする

【回答】 支部長老師の仰る通り、先人の総和会支部長並びに宗議会議員諸老師が築き上げて来た礎を護り三綱領に基づいた会派の運営に勤しみつつ現代社会に即した考えを取り入れつつ伝統をまもる事が会派運営の旨と考えております。

《意見 6-2》

宗門の IT 化を進めて頂きたい

【回答】 全国各寺院、教区、宗務所へ IT 化を促すことは、迅速な伝達や意思の疎通、ペーパーレス化が期待できると思われます。その為に、本庁内に IT に特化した



各支部との意見交換で答える総和会執行部

部門を設けるとのご提言、次世代を担う宗侶の活躍、機構改革の論点となると考えます。この件に関しましては宗務行政に直接関わる課題でありますので、四部会等の会議において慎重審議してまいります。

因みに、全国總和会においては現在、会のホームページの充実や会員専用サイトの構築を進めております。各位のご意見賜りながら、有益なツールとなるよう鋭意努力をしてまいりたいと思っております。

《意見7-1》 岩手県支部 吉田大信老師

現代社会における仏教が期待されること

【回答】 仏教への信仰は現代社会において薄れつつあります。しかしながら私達僧侶が心の寄り添いとなり、檀信徒や地域の皆様方に命の有り難さや人との繋がり大切さを説いていくことが大本山總持寺のスローガンである「相承」であると思われまます。各地域や環境などによっても違いはあるかと思われまますが様々な状況を理解しその違いを認めあい「感謝(報恩)」と「慈愛」の心を広めて行く事が宗門や僧侶に期待される事と思慮致します。

《意見7-2》

その中で曹洞宗、總和会はどのような役割を担うのか

【回答】 上記の質問で答弁致しました通り檀信徒及び地域社会への安寧を冀い各会員諸老師と意見交換や交流を行い共に、より良い社会づくりに邁進して行く事が使命ではないかと思慮いたします。

《意見7-3》

その總和会の役割の中で地方の大会はどういう位置づけなのか

【回答】 地方の大会は大変重要な大会であり全国總和会本部より責任を持って執行部及び内局を参加させていただき、様々な意見や要望を会の運営に反映させ、より良い会派運営並びに意見交換の場として考えております。

《意見7-4》

会派が各支部に期待することは何か

【回答】 本会といたしましては、各支部の支部長及び役員、会員の諸老師の様々な御意見や御提言を拝聴して宗門への発信及び今後の課題に取り組みたいと存じます。また、和合の精神を基本とし總和会が一枚岩になって宗門を牽引していける組織として活動する為に各支部の御厚情と御教導を賜りたく存じます。



自己紹介とともに地域の現況が報告された



提案や要望の多くは四部会などでも今後審議される

第30回總和会全国大会

◇令和5年11月6・7日(月・火)

◇会場 大本山總持寺・曹洞宗檀信徒会館



總和会ホームページ

<http://souwakai.info>

新 議 員 紹 介



第10区 愛知県第1208番
薬師寺 内山正也

皆様のご意見を宗門に届けることのできるよう努力してまいります



第13区 京都府第228番
頼光寺 立身一徳

「地方の声を中央行政に活かす」を信条に精進弁道致します。ご指導の程よろしくお願致します。

編集・石附正賢 平岩浩文 高橋英悟 岩本一典
立身一徳 内山正也